



# 熱・愛・誠

大野っ子供り



令和3年10月18日 第6号 佐世保市立大野小学校 文責 校長 松田美穂

## 実りのある後期前半となるために

～「ルールを守れる、やさしい大野っ子供らになろう～

秋晴れの気持ちよい、去る10月12日、大野小学校全児童699名で後期前半が元気いっぱいにスタートしました。3名の児童代表が、後期への抱負をしっかりと発表し、目標も新たに組み立てているところです。始業式にあたり、私から2つのことを話しました。

1つ目は、我が大野小学校児童会の令和3年度スローガン「ルールを守れる、やさしい大野っ子供らになろう」についてです。私はこの素晴らしいスローガンを、誇りに思っています。

「ルールを守る。」一見当たり前のことですが、その当たり前をきちんとできる力を培うことこそ、学校での学習です。ルールを守らなくても、「自由の方がいいじゃないか」と思う人がいるかもしれませんが、でも一人がルールを守らないと、必ず他の誰かが嫌な思いをしています。人に迷惑をかけているのです。人に嫌な思いをさせてまで、自由にわがままをすることが本当に楽しいことなのでしょうか。例えば「廊下は静かに歩く」となっています。もし誰かが走って、静かに歩いている人にぶつかってしまったら・・・、お互いにけがをすることになってしまいます。ルールを守れることは、クラスみんなのことを考えることと同じです。人の気持ちを考えること、それは優しさです。みんなでルールを守って、誰一人嫌な思いをする人がいない学校。それこそ、みんなが安心して勉強や運動ができる、本当に楽しい学校です。ルールを守っていない人がいたら、みんなで守ることの大切さを教え合ってほしい。「そんなことをしてはだめだよ。」と言ってあげるのも友情だと話しました。

2つ目は、感謝する心、ありがたい心を大切にしてほしいということです。

9月の敬老の日に向けて、全児童から地域のお年寄りの方々へ向けて手紙を書きました。その後、子どもたちにお礼の手紙がたくさん届きました。学校宛に来たものもあり、そのお礼の手紙を読んで、また心が温かくなりました。感謝の心は連鎖し、深まっていくものです。

学校での学びは、豊かな心を育てるものでなければなりません。私は豊かな心の最たるものは「感謝する心」だと思っています。私たちが平穏に日々生きているのは、誰かの思いやりや親切、働きのおかげです。学校も、みんなの一番身近にいる先生方の働きをはじめ、保護者・地域の皆様から温かく支えられています。栽培活動の畑を手入れしてくださっている学校管理員さん、おいしい給食を毎日汗をかきながら作ってくださっている調理師さん、総合学習で使用している畑の日頃の手入れをしてくださっている方、読み語りに来てくださっている方、学習の支援に来てくださっている方、登校中、車の事故にあわないよう、見守ったり誘導したりして下さっている方、子どもたちがよく遊ぶ池野公園の草刈りをしてくださっている方もおられます。子どもたちには、自分たちを支えてくださっている方々に気付いてほしいのです。感謝の気持ちをもっていたら、自然と「ありがとう」の言葉が出るものです。あいさつもまた然りです。近頃、この「『あいさつ』が十分でない。」と、ご指摘を受けることがあります。改めてもう一度、「あいさつ」指導をしているところです。あいさつは自分自身や自分の身の回りを変えていく力をもっています。感謝する心をもつこと、そしてそれを口に出すこと。「ありがとう」を言葉にすることで気持ちが伝わり、互いにうれしい気持ちになり、心がつながる。そういう体験を積み重ねて心は豊かになっていくのだと思います。後期は、季節的にも勉強や運動もはかどり、大きく力をつけるチャンスでもあります。学校生活の中心に、この「ルールを守れるやさしい大野っ子供らになろう」において、頑張ってもらいたいと思っています。



# 学力検査の傾向と対策について

5月末に実施した全国学力学習状況調査(6年)の結果について、その主な成果と課題、改善策をお知らせします。学力の定着を図る検証軸の一つとして、結果を真摯に受け止め、日々の授業に取り組んでいるところです。全体の傾向としては、市平均正答率に対して国語は上回っており、算数は同程度です。

## 1 成果が見られる内容

### <国語>

- 「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考慮することができる」「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」「文の中における主語と述語の関係を考える」

### <算数>

- 「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる」「棒グラフから数量を読み取ったり、項目間の関係を読み取ることができる」「商が1よりも小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係をとらえて除法の式に表し、計算をすることができる」

### <児童質問紙調査>

- 「学校に行くのが楽しい」「将来の夢や目標をもっている」「友達と協力するのは楽しい」と感じている児童の割合が高い。

## 2 課題となる内容

### <国語>

- 「目的や意図に応じ、資料を使って話す」「目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付ける」「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」

### <算数>

- 「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる」「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。」「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。」

### <児童質問紙調査>

- 「テレビゲームなどのメデイを使用する時間が長時間使用している」児童の割合が高い。「土曜日や日曜日に学習している」児童の割合が低い。「これまでICTを授業で活用した経験」が少ない。

**【改善策】**※前号でお知らせした内容とほぼ同じです。

本校では、「読む力」と「伝える力」を高める指導の在り方～Reading Skillの視点を活かした指導の工夫を通して～という主題を設定し、子どもたちの読解力を高める研究に取り組んでいます。

読解力はすべての教科に通じる基盤となる力です。「読む力・伝える力」を高めるために、発達段階に応じて主に次のような取組を行います。

- 授業では「めあて」を確実に子どもに把握させること、「まとめ」は子どもが自分の言葉でまとめることができるように努めます。
- キーワードを使ってまとめる、条件に即して書く、自分の考えを説明するなど、「読む」「書く」「伝える」学習活動の充実を図ります。
- 表やグラフの基礎的な読み取りを丁寧に行い、わかったことを記述する活動を多く取り入れます。
- 授業や家庭学習など、学習におけるICT活用を推進します。